

# 安心・安全な街づくりを支える流域下水道の整備 (防災・安全) (重点計画)

## 計画概要

◆計画期間 平成26年度～平成30年度(5年間)

### ◆計画の目標

安心して快適に暮らせるまちづくりを実現するため、下水道施設の耐震化を進める。

### ◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 緊急輸送路上にある豊川流域管内のマンホール(109基)について、地震対策実施率を52%(平成26年度当初)から100%(平成27年度末)に増加させる。

指標②: 側方流動に伴う永久ひずみにより抜け出しの恐れのある豊川流域管内管きよ(L=928m)について地震対策実施率を0%(平成26年度当初)から100%(平成29年度末)に増加させる。

指標③: 処理場の重要施設(消毒施設、管理棟)7施設の地震対策実施率を、0%(平成29年度当初)から42.9%(平成30年度末)に増加させる。

## 評価内容

### ◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費	事業の実施状況	進捗率※
A（基幹事業名）	795百万円	マンホール109基及び管きよの地震対策928mを実施	100%
B 関連社会資本整備事業	0百万円	—	—%
C 効果促進事業	0百万円	—	—%
合 計	795百万円		

※進捗率(%)は、各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

### ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

#### I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況（別紙1）

豊川流域管内における緊急輸送路上にあるマンホール109基及び側方流動に伴う永久ひずみにより抜け出しの恐れのある管きよ928mの耐震化が完了したことで、被災時の管きよ施設の流下機能を確保することができた。

## Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(緊急輸送路上におけるマンホールの地震対策実施率)

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	
最終実績値	100%		

指標②(側方流動に伴う永久ひずみにより抜出しの恐れのある管きよの地震対策実施率)

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	
最終実績値	100%		

指標③(処理場の重要施設(消毒施設、管理棟)の地震対策実施率)

最終目標値	50%	目標値と実績値に差が出た要因	
最終実績値	50%		

## Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

## ◆今後の方針

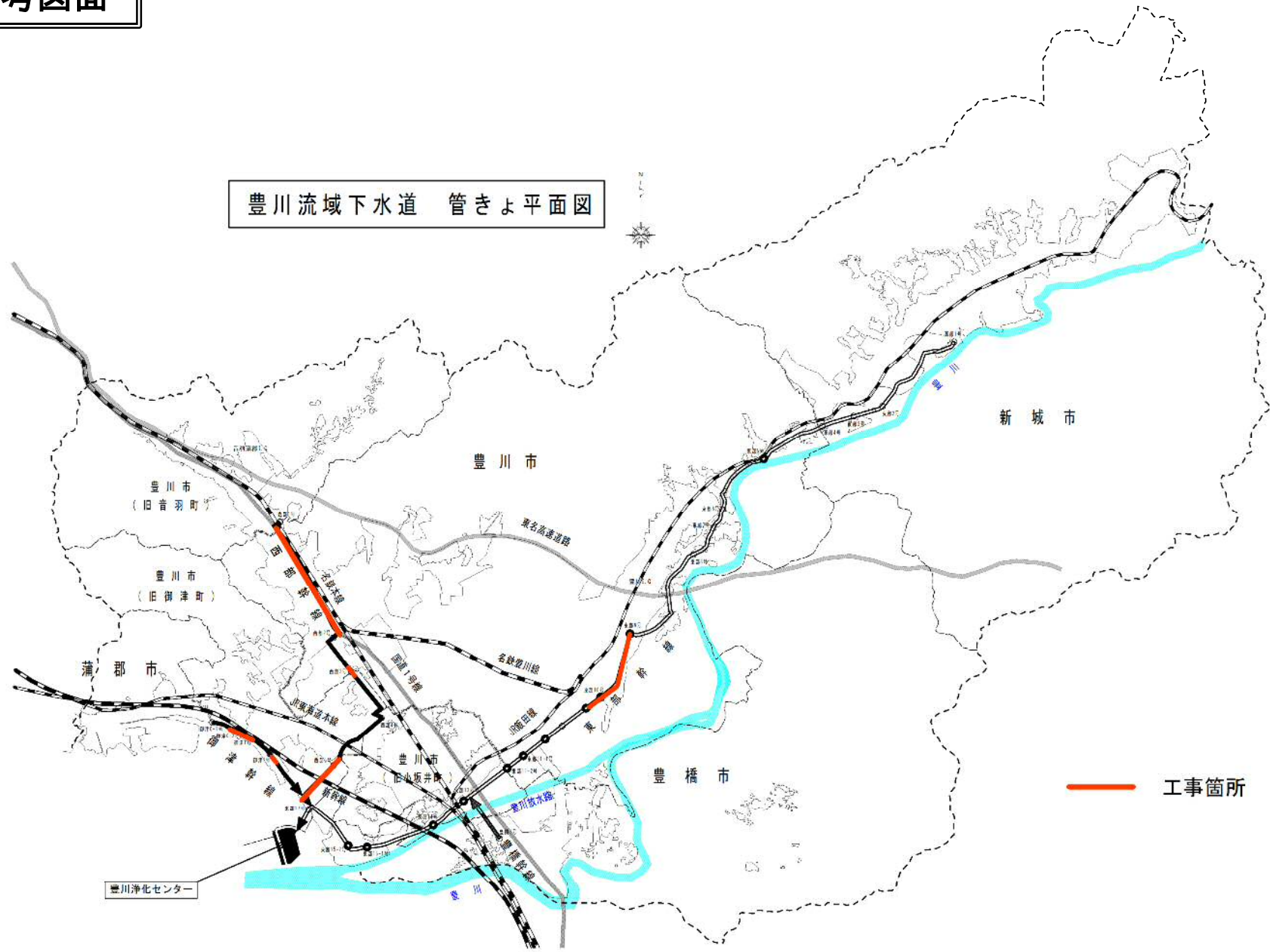
被災時の下水処理機能を確保するため、処理場の重要施設（消毒施設、管理棟）の地震対策及びマンホールの液状化対策を引き続き実施する。

## ◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体で評価を実施。なお、計画の各要素事業（基幹事業）については愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。
事後評価の実施時期	令和2年3月
公表の方法	愛知県建設局下水道課のWEBページ掲載

# 参考図面

豊川流域下水道 管きょ平面図



— 工事箇所

豊川浄化センター

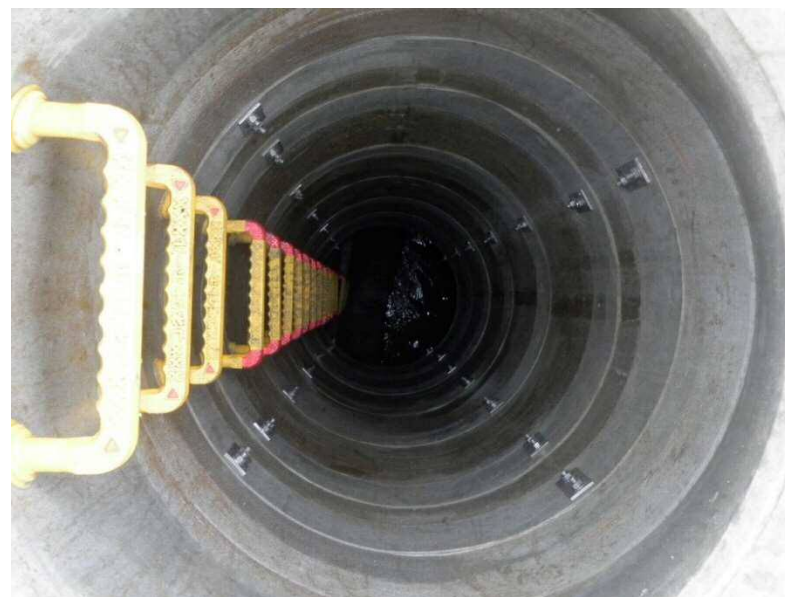
## 【基幹事業】

- 事業名 豊川流域下水道事業 東部幹線、西部幹線(地震対策)
- 工事概要 人孔側塊耐震工事 一式
- 事業箇所 豊川市赤坂町地内始め
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 耐震性能不足の施設を補強することにより、地震の発生時にも、側塊のずれによって発生する地下水及び土砂流入による路面陥没等を防ぐことができるようになった。

工事施工前

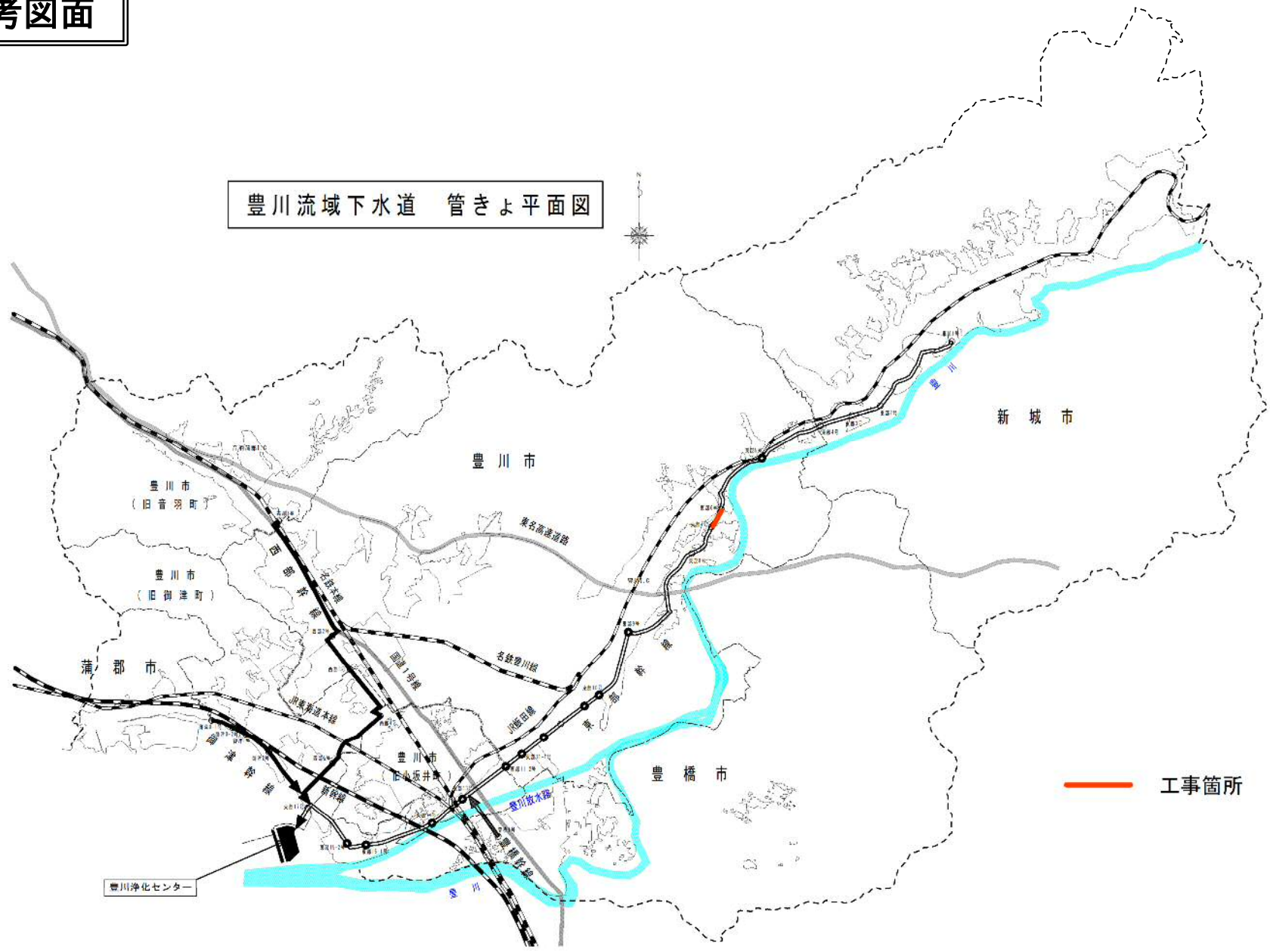


工事施工後



# 参考図面

豊川流域下水道 管きよ平面図

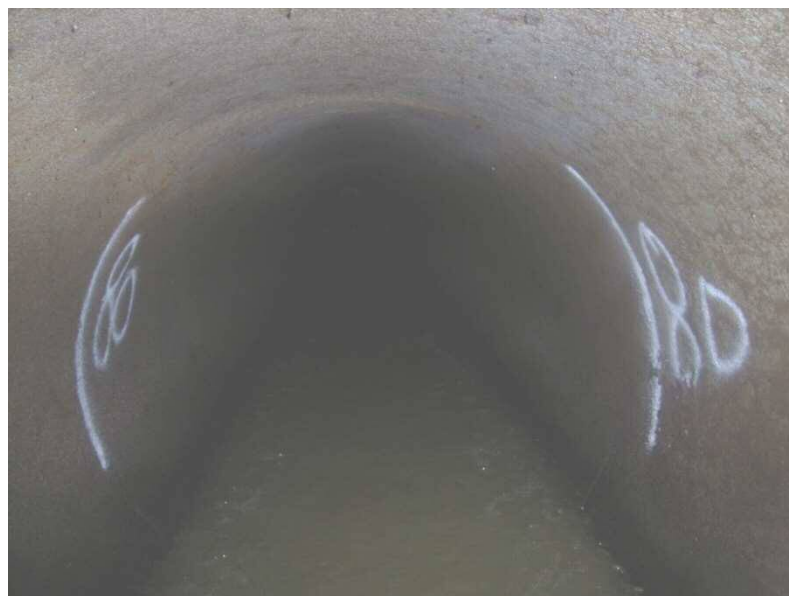


— 工事箇所

【基幹事業】

- 事業名 豊川流域下水道事業 東部幹線(地震対策)
- 工事概要 管きよ更生工事 L=366m
- 事業箇所 豊川市豊津町地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 耐震性能不足の施設を補強することにより、地震の発生時にも、側方流動に伴う永久ひずみによる抜け出しを防ぎ、流下機能の確保ができるようになった。

工事施工前



工事施工後

